

紙のリサイクルにも中国の経済活動が影響

2014.3.3 発行

資源の少ない日本

アベノミクスの効果で、企業業績の回復が顕著となり、給与水準の上昇が期待できるようになってきました。給与が上がり、商品価格が横ばいであれば、家計にゆとりが増すこととなりますが、実際には、円安による原燃料費の上昇の影響で物価上昇圧力も同時に存在しています。日本は国土が狭いため、自国内で多くの資源を確保することが出来ず、原油や鉄鉱石などに代表される資源の多くを輸入に頼っているのです。こうした環境のなか、一度製品化したものを再利用し、資源を有効活用することで、少しでも物価上昇による影響を抑えたいところです。

今回のコラムでは、筆者が担当するパルプ・紙セクターにおいてすでに活用が進んでいる“紙のリサイクル”について取り上げます。

紙の原料は？

紙は、主に木材から作られたパルプと古紙を原料としています。パルプとは、木材や草などから抽出した植物繊維のことで、紙の原料として用いられるのは、針葉樹を使用する針葉樹パルプと広葉樹を使用する広葉樹パルプです。自然の森林の木材を利用することもあるため、地球の環境保全にも注意しながら計画的に収穫する必要があります。一方、古紙とは、私達が生活している過程で分別して捨てている古新聞や古雑誌や使用済みの段ボ

ールのことです。これらを回収し、紙や段ボールとしてリサイクルすることで、再生紙が作られています。

古紙を使用したほうが、地球環境にやさしいことは容易に理解できますが、日本ではどの程度古紙を利用して紙や段ボールを製造しているのか見てみましょう。

日本の古紙利用率は既にトップクラス

2012年の紙・板紙合計の古紙利用率は63.7%と前年より0.7%ポイント上昇しました。2000年の古紙利用率が57%なので、12年間で7%近く増加したことになります。現在の古紙利用率は世界トップクラスと言えます。国土が狭いため、木材を原料としたパルプを利用するより、古紙を利用して紙を製造するほうが適しているほか、古紙回収システムが整備されていることが、理由としてあげられます。

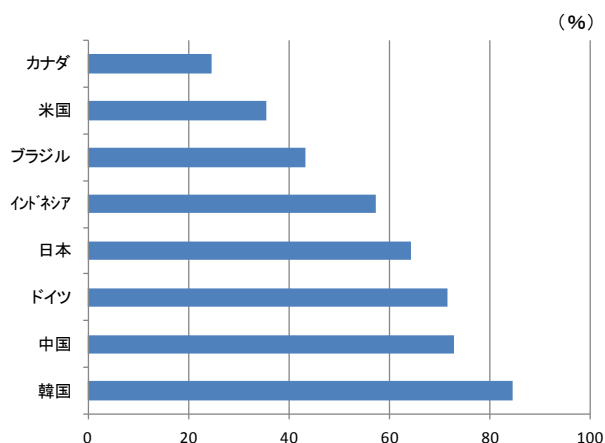
世界に目を向けると、日本以外で古紙利用率の高い国は、韓国、中国、ドイツなどです(図表1)。韓国は、自国で新しいパルプを多く製造していないことから、古紙利用率が高くなっています。また、ドイツの古紙利用率が高い理由は、古紙から生産した紙を輸出しているからです。一方、中国は古紙の回収率が低いにもかかわらず、古紙利用率が比較的高い国です。これは、古紙を輸入して紙や段ボールを生産しているためで、地理的に近い日本

当資料は、ホームページ閲覧者の理解と利便性向上に資するための情報提供を目的としたものであり、投資勧誘や売買推奨を目的とするものではありません。また、当サイトの内容については、当社が信頼できると判断した情報および資料等に基づいておりますが、その情報の正確性、完全性等を保証するものではありません。これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社は一切の責任を負いかねます。

明治安田アセットマネジメント株式会社

の古紙需要や古紙価格に影響を与えるようになりました。

(図表 1) 各国の古紙利用率



出所: RISI 資料より明治安田アセットマネジメント
作成

中国の紙の需要で古紙価格が変動？

日本の古紙輸出量は 2000 年頃から少しずつ増加し、2010 年頃には古紙回収量の 20%程度にまで上昇しました。内訳をみると、古紙輸出量に占める中国向け輸出比率が 80%を占め、日本で回収される古紙の 15%以上が中国に移動している様子が伺えます。2000 年以降、近代化が進む中国では、紙や段ボールの需要が旺盛となりましたが、1990 年代までは紙や段ボールの生産水準が低かったこともあり、リサイクル可能な古紙の絶対量が不足していました。これを補うため、紙や段ボールの古紙発生率が高い日本などから古紙の調達をするようにな

ったのです。近年は中国国内で古紙回収率が徐々に高まっていることもあり、ようやく中国向け輸出に減少傾向が見られるようになりました。

古紙輸出量の増加は、日本国内の古紙価格にも影響を及ぼしました。1990 年代後半は、日本各地で自治体による古紙回収が活発となり古紙回収量は増加したものの、古紙問屋の余剰在庫が積み上がる事態となり、古紙価格は低水準で推移していました。しかし、2000 年以降、中国の紙需要が旺盛になると、古紙の輸出量が増加、価格も上昇するようになりました。輸出価格が高水準な時期は、輸出される古紙量が多くなることで国内に流通する古紙量が不足し、国内需給も逼迫したのです。

最近では、中国の紙や段ボールの需要増加に落ち着きが見られることや中国国内での古紙回収率上昇で、古紙輸出価格が高騰する局面は減りつつあります。しかし、日本国内で回収される古紙は、かつて日本国内でパルプから生産された紙や段ボールを起源としています。資源の少ない日本にとって、外部環境に大きく影響されず、出来る限り自国内でリサイクルしていく社会を構築することが重要と言えます。

国内株式運用部調査担当部長
(紙パ、鉄鋼、非鉄金属、その他製品、卸売担当)
金井 紀人